常磐文藝

名月俳見記（二）

滿壽莊

を眺むる折しも艫聲悠々
川舟やよい茶よい酒よい　芭蕉
月夜の清遊を試むるもあるべし
されど今宵は
名月や居酒飲まんと頬かふり　其角
の上戸に
名月や餅屋を叩く人もある　越人
の下戸仲間もあるべし
名月や海も思はず山も見ず　去來
只々天心の月に見とれて佇立すれば
名月や我をあやまつ畑ぬし　野坂
豆盗人とあやまるゝも亦風流の逸興ぞかしこれや
川添の畑を歩るく月見哉　杉風
の折なるべく
乘なから馬草はませて月見哉　去來
の野越も捨難ぎに
名月や影見た人に行違ひ　蕪村
イヤこれもあなたもお見ですかなと挨拶するは罪なけれど
身の闇の頭巾も通る月見哉　仝人
ハテ此良夜に何を忍ぶ身ぞ
名月や人を抱く手を膝かしら　其角
の遊君に待たるゝ身にや
發句して笑はれにけり今日の月　文草
の坐興もつきて
寢やうといふ禿まだねず今日の月　抱一

前略、本校は遂年生徒數激増の爲め從來の校舎にてに狹溢を告ぐるに至り殊に本年新學期より實科高等女學校程度に準據し校務一層擴張致し候に就いては校舎新築の必要を感じ豫てより平町字搔槌小路（鐵道踏切傍）に敷地を卜し新築中の處畧ぼ竣工仕候間本月十三日午前十時落成式を擧行し當日より移轉開校可仕此段謹告候也

早々

尙本月十四、五六の三日間本校に於て生徒製作品展覽會、並びに磐城中學校×會繪畫展覽會、生花陳列會、光影會寫眞展覽會等の催しも有之候に付御來觀被下度候

平陽實科女學校
校長　酒井こゝヨ

鐵道省
福島縣廳
御指定
仙台高等工業學校
試驗證明

萬年瓦
萬年瓦工業株式會社
福島縣四倉町
電話三八番

清酒
鶴仙
醸造元
石城郡平窪村
松吉屋本店
電話二四一番

開設
御料理
大村や
郡役所横通
旅館
大村屋
平町二丁目
（電話一七五番）

◇キヅト買ッテ戴ケル
確信アル値段
米松（セメントグリウ土地建物其他各種）
建物請負一般木材業
磐城建物株式會社
平町五丁目
電話五一七番

洋食は
向上軒
平停車場新道通り
電話（五二三番）

開業
喜樂團子　一皿十五錢
喜樂すし　散廿五錢　井三十錢
出前は遠近に不拘
早速お届けします
◇女給募集す
平舘前　喜樂
電話呼出四六六番

披露
是非……
粹で上品な履物を
御求めの際は
平町二丁目（電話一五六番）
三井履物店

株式
賣買中値……
電話に金融致します

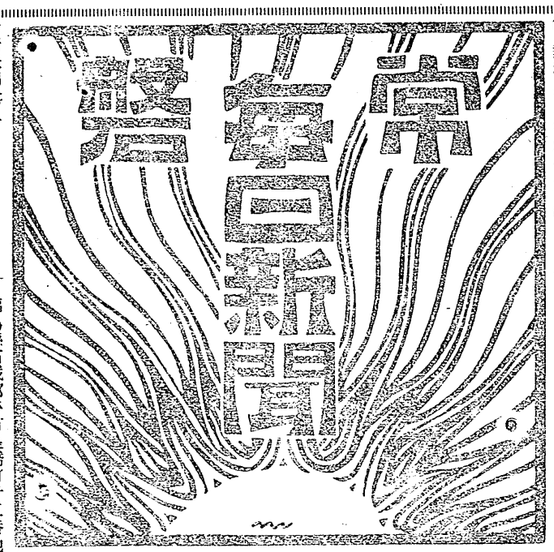
銘格　拂込　時價

磐城銀行	四五〇、〇	四五三、五
平銀行	五〇、〇	六八、〇
磐越銀行	一二、五	一〇、五
磐城實業	五〇、〇	四〇、〇
磐城實新	三〇、〇	二七、〇
田村實銀	一二、五	一二、五
四倉銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	二四、五
同　新	一五、〇	一八、八
百七銀行	五〇、〇	五五、〇
同　新	一二、五	一六、〇
七七銀行	一二、五	九、八
郡山電氣	五〇、〇	三七、五
同　新	二五、〇	一七、五
只見川電	一二、五	七、〇
植田水電	一二、五	一五、五
好間水電	一二、五	一三、〇
磐城建物	二〇、〇	五、〇
磐城製糸	五〇、〇	四、〇
平信託	一二、五	二五、〇
磐城勸業	三〇、〇	一三、五
植田物産	二五、〇	二六、〇
平製氷	二〇、〇	二〇、〇
好間軌道	五〇、〇	三〇、〇
入山新	三二、五	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	五、〇
磐城炭礦	五〇、〇	四一、〇
同　新	二二、五	一八、〇
磐城セメン	五〇、〇	六四、五
同　新	三五、〇	四三、五
平運送	一二、五	八、〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願上候

平町田町　電話三二二番
丸登株式店
川添房二郎

（大正十二年一月八日第三種郵便物認可）　常磐毎日新聞（第二百四十二號）（一）



定價　一部金貳錢　一ヶ月壱錢　郵税五厘
廣告料　五號十二字詰一行　五十錢
休刊日　日曜大祭日ノ翌日
福島縣石城郡平町鍛冶町十一
印刷所　本社專屬　磐陽社
發行兼編輯人　印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
發行所　常磐毎日新聞社

九月十一日夕刊

寄書

減師に代る國防の力

學生の軍隊教育

八卷岳峯

八日の本紙夕刊に掲載された田中君の『少年の軍事教育』は余の大いに同感を禁じ能はざる近來の快文字である、余は少年は勿論更らに學生に對しても其必要を痛感する一人である、數箇師團の廢止が議論せらるゝ秋に當つて最も注意を要するは軍人精神の沮喪である此の減師に代る國防の力は是非共徹底的に軍人精神を吹き込んだ學生に求めねばならぬのであるが夫れには矢張り兵隊と同樣軍服を着せ銃劍を帶せしめて教練せしめねばならぬ、此の議論は非常に頑固の樣であるけれ共軍人の服裝より來る感化は絶大なるものである、平素軟弱な精神を有するものも一度軍隊の飯を食つて軍服を着し銃劍を帶ばせしむれば嚴然たる大和魂が湧然として起るのである、依つて學生に軍事教育を施すなら例へ古服でもよいから軍服を着せしむる必要がある、今日の學生の服裝には中には紳士も及ばぬ立派な服裝をして居る、これに銃劍を帶ばせしむるに於ては服裝に氣を取られて思ひ切つた教練は出來ない、野でも畑でも飛び込んで腹這えになつたり、溝河に飛び込んだりしなければ徹底的な軍人教育は出來ないと思ふ理論や上品な教練は鐵砲玉が雨あられと降る實際の野戰には毫末も役に立たぬ事になる、師團の減少もよいが大切な國防が薄れる樣では國家の一大事だ、爲政者は軍務當局の意見もよく〳〵徵して以て審重な態度を取らねばならぬと信ずる

今日平町役場にて 撿事と町長の長談議

平電氣の問題か

四邊をはゞかる低い聲

本日午前八時頃佐藤撿事が突然町役場に姿を現はして折柄病軀を提げて出勤した伊坂町長と額を合せアタリをはばかる低い聲で何事かコソコソと話し始めた、兩氏共に

顔面神經 の緊張して居る事から見て餘程の重大問題であるらしく時々老町長の太い眉がピクリと動く然も其會見時間が三時間も續いて尚ほ終へず時計の針が十一時十八分を示した時漸く佐藤撿事は洋服のポケットからチョイト

金時計を 覗いてアタフタと辭し去つた、サア事だ待ちかねて居た新聞記者の連中が早速町長室に押し掛けたが町長は口を緘して語らない、而し前後の事情から察して大瀧發電所問題の張本平電氣會社の某事件に關しての打合せとは略ぼ見當が付くが會見の內容が

如何なる ものであるかは撿事と町長の間に狹まれたテーブル以外に知るものがない

平町附近に

鐵條網を張る

第二師團の機動演習を

第二師團の機動演習は堀內少將總監の下に來月一日から宮城福島兩縣下に亘つて大々的に行はるゝ筈であるが本縣では濱街道を主とし南軍の主力を平町に集中し一日から三日迄聯隊對抗、五日より七日迄旅團對抗、最終の八九兩日は師團對抗の壯烈なる演習を行ひ十日分列式を行ふべく而して今期演習は歐州大戰に鑑みた最新兵器を用ひ飛行隊重砲隊照明隊等の部員を定め尚實彈射擊を以て鐵條網を破壞するなど實戰と比しき壯觀を呈するであらうと、

平驛運輸 狀況

乘降客が減少

平驛に於ける去月中の運輸狀況を聞くに乘客八萬四千六百十六人、降客八萬三千八百廿人、此の賃銀七萬五千二百八圓九十三錢、貨物の到着噸數は一萬二千六百五十噸、發送二千三百廿九噸、此賃銀八萬八千二百六十五圓四十錢であるが前年同期に比して乘客一萬七千三百十四人、降客二萬千七人の減少を示して居る

奉納武道試合 大日本武德會平分會神谷分區にては十五日平町縣社八幡神社の祭典當日、午前十時から同境內にて晴雨に拘らず奉納武會を擧行すると、

平署事務撿閲 平署にては伊藤署長自から本日署內々勤事務の書類一濟を撿閲した。

年毎に

船の數が減る

漁業家の苦境

石城郡各濱に於ける漁船數は年々減少の傾向を示し昨年中に減少した船は數小名濱四隻中の一、江名濱廿七隻中二、豊間七隻中四、四倉廿隻中の六隻で無論噸數はその割に減少せぬが兎に角年々船數の減少して行く事は從來の近海漁業から段々と遠洋漁業に移り行く爲め自然小漁業家は破滅の苦境に陷りつゝある事實を物語るものでこれは漁業界にとつて最も注目すべき重大問題であると。

蜜蜂の女王に……

なり度い千代子孃

▽……演壇でペソをかく

既報昨夜七時からの平劇場に於ける婦人參政權論者の政談演說會は稀らし物好な人の心をそゝつて滿員の盛況を呈したが高橋千代子サンが柳眉を逆立てゝ婦人は蜜蜂の女王の如く多數の男子を統御する力を持て居る、而もそうした時代が來なければ眞の文化は望まれない、と平氣な顔で遣つてのけた爲め聽衆は默つて居ず夫れこそ蜂の巢をつゝき壞した樣に野次るは、野次るは、トウトウ千代子サンベソを掻いて演壇に立往生する等の喜劇もあつて賑々しく又騷々しい會合であつたと

資金が固定し

窮境に泣く

平町の質屋業

平町の戶數四千三百に對し質屋の現在數が十三軒であるがいづれも不景氣の打擊を受けぬものはなく舊盆前の如き全く入質ばかりで受け出すものは稀であつたが爲め資金が固定し隨分窮境に陷つた質屋も少くなかつたと、

寄附を遺言し

老教員永眠

石城郡夏井村小學校教員伊藤敬止氏は七十一歲の老齡に達する迄教職に身を置き同校の在職年限三十有餘年に及んだが去る九日同校に百圓、青年團に四十圓、消防組に卅圓寄附すべき事を遺言して永眠したと。

丸龜の福引 平町三丁目中野吳服店大賣出しの昨日迄に於ける福引當籤者は一等平町宮川床、同洋本町阿久津氏、外二等以下五等迄三百二十八口であると

不平受付

投書歡迎

白米に白砂 私は○○商店から白米をとりつけにして居ますが最近無暗に白砂を混じて白米の外見を飾る爲め洗へば地色の黑米となります、衛生上にもよくないのですから取締つて下さい

(研町生)

▼伊藤署長の答　混砂米には制限があるのですが無暗に白砂をまぜて量目をゴマ化す事は甚だ許し難い事ですから早速取調べて見ます

家庭欄

ビフテキの燒方

ロースを厚さ四分程に切りそれを空瓶のやうなものでとん〳〵たゝき、三分ほどの厚さにのばします、そしてフライ鍋にバタを少しとかし、今の肉を入れて上下にちよい〳〵返へし、凡そ十回もくりかへしたならば火から一旦鍋を下ろし肉に鹽、胡椒をうすくふり再び火にかけて四五回裏返し、肉の上にバタを一面にぬつて暫くおきます、すると肉から澤山に肉汁が浸み出ますから、その肉汁をこぼさぬやうに皿にとります、バタをぬつてからはもう決して返してはなりません、肉の量は一人前二十五匁乃至三十匁ぐらゐが適度でありまず、一度はためしと思つて試みて御覽なさい必らず豫期以上に食膳を賑します

常磐片々

○

婦人參政權論者に蜜蜂の譬を聞かされ聽衆怒る

○

男を蜜蜂とは甘く見過る

○

身いやしくもお白粧を塗る高等動物であるに拘らず昆虫の生活に憧れねばならぬ事程左樣に彼女は低級であります、ハイ

○

野次られて棒立ちとなり落付かぬ尻を前後左右にコマカク震はせながら『殿方にはマケマセン』

○

何を云つてるんデエ

暑い、暑い、と云つてる間に今年もはや冷涼水の如く流るゝ秋となつた、清流に舟を浮べる納涼の樂しみはやがて紅葉の林間酒をあたゝむる

キノコの香り
白岩
俳味を帶び
一日の清遊

紅葉狩 りや、獲ものゝ松葉いぶしに舌つゝみ打つ蕈がりの所謂禪骨俳味を帶びた風流韻事にかはることであらう、櫛境川前村の紅葉には今後少しく間があるけれど雨の模樣や氣溫の關係如何によりては白岩の蕈がりもそろ〳〵今月末から來月かけて

其時季 に入るのが毎年の例である、平小林區署では數年來殆んとその年中行事として白岩山蕈がりの團体を募り木の葉洩れ來る秋の陽を浴び乍ら置酒歡談心ゆく迄一日の清興をほしいまゝにする

平町に對する

土木補助額

僅かに五千圓

平土木監督所に此程到着した平町に對する十三年度土木費の縣費補助指令に依つて見ると僅かに五千九百卅四圓に過ぎず昨年度の補助額一萬七千二百六十五圓に比し約一萬千餘圓の減額を見た譯であるが是れには縣豫算の關係上止むを得ないとしても昨年度に於て縣費補助を仰ぐ總工費三萬五千百九圓であつたのに今年度に於ては總工費十一萬七千四百廿八圓中縣費補助を仰ぐべきが三萬二千餘圓あるに拘らず補助金が斯くも減額するに於ては今年度に行ふ筈であつた平町の一部土木事業は來年度迄の繼續事業となる外はあるまいと見られて居る

募集 文藝其他一般投稿を募集します

磐女校運動會 磐城高等女學校にては來月十一日同校グラウンドに於て陸上運動會を催す由

紺屋町懇話會 平町紺屋町一の組では居住者の親睦を圖る目的で懇話會を組織し十三日午後七時から同町鈴木清太郎方にて開く由だが今後は毎月一回宛開會すると

平町人事

▲出生

△南町　當時石城郡好間村大字ド好間野口長治氏三女サト

△古鍛冶町　黑崎明雄氏長男一男